

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために 手を取り合おう
RI 会長テーマ

2025~2026 年度
大船渡西ロータリークラブ会報
七福人



会長 菅野 嘉洋
副会長 三田地大悟
幹事 松田 福美

=会長指針=

そして社会も磨きましょう

・・・ 例会記録 ・・・

7月第4回例会 2025年7月24日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 20,000円 (報告者 佐藤裕貴会員)
本日出席率 : 64.52% 前回修正後 58.06% (マーカップ 3名) (報告者 千葉満輝会員)

★ 会長の時間 : 菅野 嘉洋 会長



今日は「平和」についてお話をしたいと思います。

先週の19日土曜日にインタークトクラブの年次大会が仙台育英高校にて開催されました。西クラブからは石川青少年奉仕委員長、信男さん、そして私が同行いたしました。詳細はこのあと青少年奉仕アワーの中で報告がありますが、その中で少し考えさせられたことがありましたので、紹介がてらお話をさせていただきたいと思います。

今年の年次大会はインタークトクラブ創立60周年の記念大会として、ウクライナのインタークトクラブの子供たち6名がゲストとして招かれておりま

した(チェルカーシィ市 ウクライナ第27学校)。また、駐日ウクライナ大使館の3等書記官の方が記念講演をされました。ウクライナ語での講演でしたので、内容はデジタルの資料で配布された日本語訳を参照したのですが、その中に「平和は果たして良いものだろうか?」という一節がありました。

それは私にとってすごく印象的な見出しだった。

平和という言葉に良くないものがあるとは思いもしない、平和という言葉にマイナスなイメージは私の頭の中には全くありませんでしたので、書記官が何を言いたいのか、とても興味を惹かれました。

書記官がおっしゃっていた内容をかいづまんで紹介すると、「自由を伴わない平和は必ずしも良いものとは言えない、自由が保障されて初めて真の平和と言える。私たちはその真の平和を得るために抵抗しているのだ」。資料が保存できていなかったので怪しい部分もありますが、おおよそそのような内容だったと記憶しております。

平和とは、争いがない状態だと私は解釈しております。ただ、それが望まない支配を受けた状態でのものならば、それは良いものではない。書記官はそう伝えたかったのではないかでしょうか。このような考え方は戦時中の国ならではというか、現在の日本ではなかなか考え方のない発想ではないかと思います。

このような考え方には衝撃的でしたし、ああ、やはりウクライナは戦時中であるのだということをあらためて認識させられました。

暑い季節になりました。来月8月は終戦の月であり、平和について向き合うにはふさわしい月です。いまだ戦時下で大変な国があるという事実を受け止めつつ、あたり前に自由を伴う平和を享受できている環境にあることと、その環境を作ってくれた先人たちに感謝する機会としたいと思います。

ロータリークラブは世界に広がる組織です。日本国内のクラブも海外のクラブと友好関係を結んでいるクラブはたくさんあります。友好は平和を構成する大切な一つの要素だと思います。あまり難しく考える必要はないと思いますが、クラブ同士で草の根的に友好を育むことが、平和へと繋がる道でもあるかもしれません。ご清聴ありがとうございました。

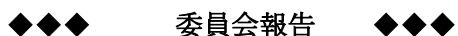


幹事報告



1 ガバナー事務所より

- RI 本部からとして クラブ内にポリオプラス活動を通じ際立った貢献をされている方を推薦下さいとの事。 締め切 10月 1日
- 19日 60周年記念 IA 年次大会が無事に開催されたとの報告が届いています。 大会に先立ち 17日にウクライナからの IAC 生6名によるソメイヨシノの苗木の植樹も行われました。



委員会報告



★ 藤原太伸社会奉仕小委員長



本日清掃作業の予定でしたが、熱中症予防のため本日の活動は中止とします。

次回の作業は8月7日の予定です。



本日のプログラム



青少年奉仕アワー：IA 年次大会報告

★ 石川恵美子青少年奉仕委員長



7月19日土曜日に仙台育英高校で開催された60周年記念インタークト年次大会に行って参りましたので報告させて頂きます。

大船渡東高校からは先生1名と生徒さん2名、当クラブからは菅野会長・鈴木信男会員・私石川の3名で参加しました。

鈴木会員には運転して連れて行って頂き大変お疲れ様でしたし、ありがとうございました。

初めて参加させて頂きましたが、今回はゲストにウクライナ第27学校のインタークトクラブの生徒さん達が来ていらっしゃいました。

第27学校とは珍しい呼び名だと思い調べてみると、ウクライナは現在多くの学校が被害を受けているため状況・情報を把握できませんでした。とても悲しいことだと思います。

会場はステージ前が555本のひまわりの花で敷き詰められており、ウクライナと日本の国旗が飾られておりました。

ウクライナと日本の国歌斉唱・祝辞等の開会セレモニーの後、駐日ウクライナ大使館3等書記官からの自由と平和についての記念講演を頂き、その後はインタークトクラブの生徒さん達が教室に移動し、何班に分かれてディスカッションしました。

ディスカッションでは、育英高校のインタークトクラブによる、沖縄ラーニングセミナーで学んだこと・感じたことに関する動画と、ウクライナのインタークトクラブが事前に作成したメッセージ動画を鑑賞してから、「自由の尊さ」「平和を守る」ことの意義について議論したようです。

東高校に確認しましたところ、ディスカッションのフィードバックは届いていないとのことでしたので、

ここではご紹介できないのが残念です。

帰りには生徒さん達が書いた平和への祈り等の短冊が貼られた七夕飾りがホールに用意されており、それぞれに記念撮影をして帰りました。

最後に、大会アジェンダの冒頭に紹介された文章を読ませて頂きます。

『ウクライナに想いを寄せて…

年次大会に参加できることを心から嬉しく思います。このような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。私たちは対話や協力を通じて、共通の目標に向かって歩んでいきたいと願っています。平和と自由は、どんな困難な時でも「自分らしくあること」を支えてくれる大切なものです。皆さまのあたたかいご支援と、ひらかれたお気持ちに、心より感謝いたします。第27高校一同より』

以上報告させて頂きます。

